

連合長崎第23回定期大会

2013年度の活動方針を確認し、森新体制がスタート！

被災地の復興、再生に全力をつくし、働くことを軸とする安心社会を実現しよう！

連合長崎第23回定期大会は10月25日（木）長崎市のセントヒル長崎で代議員171人・特別代議員18人・執行部28人の参加で開会されました。

大会は14時に若杉副会長の開会あいさつに始まり、議長団に基幹労連・平井代議員、サービス流通連合・入佐代議員、運輸労連・山口代議員を選出し議事が進められました。

はじめに小石連合長崎会長があいさつを行いました。あいさつでは、連合長崎の現況について ①東日本大震災からの復興・再生について ②組織拡大の強化について ③政治について の3点に絞って代議員に訴え、最後に日本のみならず世界の近代史において「長崎」という語感と歴史の持つ重みと責任から決して避けて通れない核兵器廃絶・平和運動や「長崎方式」と呼ばれるようになった六者懇を中心とした支援体制を行う選挙闘争等連合長崎がその期待に応えることをお願いしました。

小石会長のあいさつの後、古賀連合会長、石塚長崎県副知事、中原長崎労働局長、田上長崎市長、川越民主党県連代表、吉村社民党県連代表から激励のあいさつを受けました。今回の大会で小石連合長崎会長が勇退されることから、古賀連合会長が多忙にも関わらず長崎まで足を運んでいただき激励のあいさつが行われました。

この後、第10回フォトコンテスト最優秀賞の石山穂子さん（三菱重工長船支部：家族）の表彰を行いました。

休憩をはさんで、一般経過報告を森事務局長が行い、2012春季生活闘争総括を佐竹副事務局長、2012年度会計報告を松井副事務局長、会計監査報告を倉田監

査委員が報告し、満場の拍手をもって前回一致で承認されました。

議案は、第1号議案「2013年度運動方針（案）」を森事務局長が提案し、第2号議案「2013年度予算（案）」を松井副事務局長が提案しました。第3号議案「国政選挙（衆・参）対策（案）」は、国政選挙に対する本部方針が決定されていないことから第3号議案を削除し、第4号議案「規約・規程類の改定（案）」を入江副事務局長が提案しました。質疑討論では自治労黒崎代議員から「ミカド問題」に対する経過報告が行われ、当該単組から参加された代議員から決意表明が行われました。

第2号議案から第4号議案はそれぞれ全会一致で承認されました。

第5号議案「連合長崎役員選出（案）」については、江口役員推薦委員長から提案が行われました。新役員の手挙による信任を行うことが確認され、信任挙



手によって新役員全員が信任されました。

新旧役員あいさつでは、小石会長をはじめとする、退任される役員の方々の退任あいさつが行われました。新役員は役員が全員紹介された後に森新会長と宮崎事務局長から代表して決意表明が行われました。続いてスローガン採択を山口議長、大会宣言(案)を芳川副事務局長が提案し、いずれも全会一致で承認され、若杉副会長の閉会あいさつの後、森新会長のガンバロ一三唱で第23回定期大会が終了しました。



（議長団）
 右…基幹労連 平井委員
 中央…サービス流通連 入佐委員
 左…運輸労連 山口委員

来賓挨拶



石塚 長崎県副知事



田上 長崎市長



中原 長崎県労働局長



川越 民主党長崎県連代表



吉村 社民党長崎県連合代表



古賀 連合会長

新任挨拶



森会長（基幹労連）



宮崎事務局長（情報労連）



大会宣言

連合長崎は、本日、第23回定期大会を開催し、組織強化・拡大、2013春季生活闘争、政策制度実現などの諸課題の前進に向けた方針を力強く決定した。

昨年3月11日に発生した東日本大震災から1年半余が経過した今日も、数多くの被災者が雇用の場を失い生活基盤が揺るぎ、今もなお30万人を超える人たちが仮住まいを強いられているという現実にある。東日本大震災を国民として経験し、自然災害のリスクを可能な限り低減させていく努力を積み重ねていく必要がある。私たちは決してこの震災から得た教訓を風化させてはならない。

また、昨年秋以降のギリシャ債務危機は欧州だけでなく、世界の不安定要素となっており、世界経済の安定に資するルール・枠組みの構築が急がれる。

我が国においても、日本社会の持続可能な社会が脅かされ「中間層」が減少し、非正規労働者やワーキング・プアと言われる人たちが大きく増加し、年収200万円以下の労働者は1,100万人を超え、生活保護受給者は210万人以上に達し、自殺者は14年連続で3万人を超え、社会の不安定化が許容範囲を超える状況に陥っている。

私たちは「働くことを軸とする安心社会」の中で「誰もが働くことで社会に参加し、社会的にも経済的にも自立し、自立した個人と個人がつながりあい、持続可能な社会を形成する。そして社会全体で一人ひとりの自立を支えていく」社会を提起してきた。このような社会を実現していくことが、地域のローカルセンターである連合長崎に今求められていることである。

2013年に行われる衆参の国政選挙に、既成政党への幻滅を背景に、歯切れの良い政策で有権者の期待を集めている新しい政党や政治集団が生まれている。しかし、私たち働く者や生活者に主軸を置いた政策を共有するためにも、厳しい選挙戦が想定されるなか、連合長崎の総力を結集し推薦候補者の全員当選で安定政権をめざそう。

今、労働組合に求められていることは、すべての不条理に対して闘う姿勢を持ち行動することである。連合長崎は、取り巻く情勢がいかにかきびしくとも、諸課題に積極果敢にチャレンジするとともに、もてる英知を結集し、さらなる運動の歴史を築き上げるため、力強く前進することをここに宣言する。

2012年10月25日

日本労働組合総合連合会
長崎県連合会第23回定期大会

2013年度連合長崎執行体制

役 職		氏 名		組 織 名
会 長	専 従	森 光一	新	基幹労連
副 会 長	非専従	小島 保	新	自治労
		江口 茂広	再	基幹労連
		石井 健次 (代行)	再	U Aゼンセン
		田端 康弘	再	電力総連
		若杉 忠幸	再	J P労組
		太田 清	新	運輸労連
事務局長	専 従	宮崎 辰弥	新	情報労連
副事務局長	専 従	佐竹 明彦	再	自治労
		松井 利明	再	自治労
		鴨川 博明	新	基幹労連
		芳川孝太郎	再	電力総連
		入江 良美	再	交通労連
執 行 委 員	非専従	松尾 悟	再	サービス・流通連合
		時吉 龍也	新	自動車総連
		上田 洋一	新	情報労連
		上川 剛史	再	日教組
		益満 政彦	再	電機連合
		藤澤 恒昌	再	全駐労
		野原 秀昭	再	交通労連
		藤川 直樹	再	海員組合
		富永 一夫	再	都市交
		山田 充哉	再	自治労連
		田島 広明	再	私鉄総連
		松村 恵光	新	全自交労連
		嶋 三郎	再	国公総連
		江副 敏彦	再	J R連合
		岩永 財	再	全国ガス
		廣田 勝美	新	長崎私交通
		峰 義彦	再	長崎地協
		菊永 昌和	再	佐世保地協
		五島 喜盛	新	諫早・島原地協
		塩入 高志	新	大東・壱岐・対馬地協
鹿垣 亨	新	五島地協		
白倉あけみ	再	女性 (日教組)		
宮田 佳実		女性 (J P労組)		
会 計 監 査	非専従	小宮 伸二	新	日教組
		川田 隆往	再	電機連合
		倉田 昌明	再	都市交

「連合長崎拡大会議」

11月20日(火)第2回執行員会終了後に連合長崎拡大会議を開催し、第46回衆議院議員選挙の取り組みを確認しました。また会議の冒頭に、連合長崎森会長から高木義明予定候補者・宮島大典予定候補者に推薦状が手交されました。

連合長崎としての今後の取り組みについて

第46回衆議院議員選挙については、第2回連合長崎執行委員会(2012.11.20)における確認等をふまえ、連合長崎の組織の総力を結集し戦い抜くこととします。

1) 第46回総選挙の意義と取り組みの基本

今回の総選挙は12月4日公示、12月16日投票で実施され、「社会保障政策、経済対策、エネルギー政策、外交安全保障政策、政治改革」などを争点にして、「前に進むのか?後ろに戻るのか?」という、政治選択をかけた重要な選挙である。民主党を中心とする政権のこれまでの取り組みは、国民の期待に応え得る上では、いまだ道半ばであるが、生活者・勤労者・社会的に弱い立場に視点をあてて目指してきた社会の方向性(国民の生活が第一)は、決して間違っていないことを確信し、明日への責任を果たすため、連合長崎の総力を結集して戦い必ず勝利しなければならない。

取り組みにあたっては、民主党政権に対する激しい逆風に加え、極めて短期間であること、地協再編や新体制直後であること、さらには県内候補者の民主党離党などかつてない厳しさの中で、連合長崎が各地協、構成組織、関係組織・団体とこれまで以上に密接に連携を図り、連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」を実現するためには民主党が引き続き政権を担うことが重要であるとの認識と「自民党の復権は許さない」との決意を共有し最後まで一体感をもって戦い抜くこととする。

2) 県内の情勢等

(1)長崎1区の戦い

8期目を目指す高木義明(66)元文科相・民主前に対し、自民・元の富岡勉(66)と共産・新の牧山隆(55)元長崎市議が挑戦する選挙。

自民党は、前回の敗北以降、強力に支援団体等の再構築を図り、すでに医師会、経済界を軸に戦

う体制を整えつつある。また日本維新の会が全国の1区から候補者擁立を予定しており、この動向如何においては更なる厳しい状況となることも予想される。

(2)長崎2区の戦い

福田衣里子(31)が民主を離党し、自民新の加藤寛治(66)県議と共産党新人との争い。早急に2区総支部から新人候補を立てる予定。時間がないので難航しているが不戦敗は許されない。

(3)長崎3区の戦い

山田正彦(70)が離党届を提出し、新党「反TPP」参加を表明。自民・前の谷川弥一(71)が有利に戦いを進め、ほかに共産新人も出馬する。山田氏の離党に伴う民主党としての擁立は現時点では厳しい。

(4)長崎4区の戦い

3期目を目指す宮島大典(49)民主・前に対して、自民・前の北村誠吾(65)、国民の生活の末次精一(49)、共産党の石川悟(59)が挑戦する。末次の出馬で宮島はかなり厳しい戦いになりそうである。

3)連合長崎としての対応

(1)長崎1区 高木 義明(民主・前・66歳)
…推薦

(2)長崎4区 宮島 大典(民主・前・49歳)
…推薦

(3)長崎2区 民主党における候補者擁立の動向を踏まえ別途提起する。

(4)長崎3区 自主投票とする。

4) 具体的取り組み要請

(1)各産別・単組の取り組み

①産別(単組)での指示・周知の徹底

②10人/組合員1人 獲得活動(各構成組織自己完結型での獲得行動)

一次集約・・・11月28日(水)

最終集約・・・12月13日(木)

③組合員の紹介者を確実に票に結びつけるため、休日・定時後を利用し、本人オルグ・フォロー活動を実施する。

- 重点オルグ（獲得運動）
期間：11月23日(金)～25日(日)
12月1日(土)～2日(日)
- 本人フォロー（本番）
期間：12月4日(火)～12月15日(土)
- ④職場集会の実施（各候補者選対と連携し候補者を入れることも検討）
期間 #1：11月21日(水)～12月3日(月)
…取り組みの周知
#2：12月4日(火)～12月15日(土)
…情勢報告・決起
- ⑤TELフォローの実施
期間 11月26日(月)～12月15日(土)
- ⑥協力企業等への支援要請（朝礼・昼礼等を利用して候補者あいさつの設定）
期間 11月21日(水)～12月15日(土)
- ⑦地区選対への積極的協力
街宣活動・政策ビラの全戸配布・地区選対要請事項等への協力
- ⑧OBへの積極的なフォロー
期間 11月22日(木)～12月15日(土)
- ⑨期日前投票の呼びかけ
投開票日が、年末でもあり組織内の投票率を上げるためにも、棄権防止対策の一貫として期日前投票を呼びかける。
期間 12月5日(水)～12月15日(土)
- ⑩不在者投票対策（調査は事前におこなうこと）

出張等で当日不在の場合不在者投票をお願いします。

期間 12月5日(水)～12月15日(土)

(2)各地区選対の今後の取り組み（計画的に実施する）

①候補者選対要請に対する積極的対応

- 本番対策への積極的参画
- 決起集会・個人演説会・街頭行動等への積極参加
- 電話フォロー等への参加
- ミニ集会の開催

☆組合員ならびに家族の知人・友人に焦点をあてた集会の開催。

☆女性・若手層を対象とした集会の開催。

☆地域在住OBを対象とした集会の開催。

など候補者選対と連携を取り開催する

②総決起集会の開催…候補者選対の実態に合わせて、開催する

(3)組織内議員対策

- ①地域あるいは組織におけるオルグ活動の実施
- ②支援企業等への積極的なオルグ活動の徹底
- ③支援者・有力者へのオルグ活動徹底
- ④辻立ち・街頭演説等への協力要請

拡大会議は「青年委員会委員長 鳥飼 公太さん」の決意表明のあと、森光一連合長崎会長のガンバロー三唱で終了しました。

労働者の理念にもっとも近い候補者への投票を！



高木義明予定候補者



宮島大典予定候補者



決意表明する
鳥飼青年委員会委員長



ガンバロー三唱で締めくくった

第46回衆議員選挙勝利への決意

本日、連合長崎の旗のもと、県下各地よりお集まりいただいた皆さまと、ここに『第46回衆議院総選挙の勝利』を目指すことを確認した。

私たちは「働くことを軸とする安心社会」の実現を目指し、経済的・社会的・政治的地位の向上を図るとともに、私たちが求める政策制度実現を目指し、推薦候補者全員の必勝を目指した取り組みを展開しなければならない。

今回の総選挙は、「社会保障政策、経済対策、エネルギー政策、外交安全保障政策、政治改革」などを争点にして、「前に進むのか？後ろに戻るのか？」という、政治選択をかけた重要な選挙である。

2009年に誕生した民主党政権は、官僚主導から政治主導の政治への転換をはじめ、政治、経済、社会の様々な仕組みを変えようと取り組んできた。しかし、目指した改革は道半ばであり、私たちが希求する政策制度実現への足がかりとして、「自民党の復権は許さない」という強い意志でこの戦いを進めなければならない。

そのために、私たち若者が持つ情熱、そして行動力を存分に発揮することによって、必ず道は拓けるものと信じ、活動を展開していく。

私たち連合長崎は、「総力を上げ、第46回衆議院総選挙の勝利を果たそう！」を合言葉に、全員一丸となって戦うことをここに決意する。

2012年11月20日

連合長崎代表
青年委員会委員長 鳥飼 公太

「長崎2区」川越孝洋氏 の推薦決定！

連合長崎は、第46回衆議院議員選挙（長崎2区）予定候補者「川越孝洋」（69歳）氏から推薦要請が行われたので、11月25日（日）の四役会議で、川越氏を推薦することについて確認するとともに「今日的な結論に至った同氏の決断を重く受け止め連合長崎として全面的に支援していく」ことを確認し、11月26日（月）の持ち回り執行委員会で同氏の推薦決定を行いました。

上記のとおり川越孝洋氏の推薦を決定したことにより、第46回衆議院議員選挙の連合長崎としての対応は以下のとおりとなります。

長崎1区	高木義明（民主・前・66歳）	推薦
長崎2区	川越孝洋（民主・前・69歳）	推薦
長崎3区	自主投票	
長崎4区	宮島大典（民主・前・49歳）	推薦



第46回衆議院議員選挙(長崎2区)
予定候補者

川越孝洋氏（民主・前・69歳）

男女が共に、 仕事と生活を調和できる 職場・社会をつくるう！

連合長崎女性委員会は、11月17日(土)教育文化会館において、第23回女性委員会総会を開催しました。

2012年度活動経過報告では、女性委員会が主催する学習会や、男女平等参画実現に向けた取り組み、連合長崎と連携した平和の取り組み等について報告を行いました。

続いて第1号議案として、『男女がともに仕事と生活を調和できる職場・社会をつくろう！』を目標に「2013

年度の活動方針」、第2号議案「2013年度予算」、第3号議案「役員体制」まで提起を行い、満場一致で承認されました。

最後に、総会宣言として、『男女双方のワーク・ライフ・バランスの実現で男女にかかわらず「働くことを軸とする安心」を実感できる社会をつくっていく』ことを確認し、総会を閉会しました。



新役員

2013年度役員体制		
役職	氏名	産別
委員長	白倉あけみ	日教組
副委員長	山中長枝	情報労連
事務局長	宮田佳実	J P 労組
幹事	杉崎はつ子	自治労
幹事	岩永綾子	基幹労連
幹事	山田由美	電力総連
幹事	松尾京子	全労金

退任役員		
旧・役職	氏名	産別
委員長	松本久美	自治労
副委員長	中川チエミ	電力総連
幹事	末吉祐子	自治労
幹事	松添繁子	基幹労連

若い力を結集しよう！ パワフル！ジョイフル！ ハートフル！

連合長崎青年委員会は、11月17日(土)教育文化会館において、第23回青年委員会総会を開催しました。

2012年度活動経過として、レクリエーション、女性委員会と連携した取り組み、平和への取り組みなどを報告した後、第1号議案の2013年度運動方針から、第2号議案の2013年度予算、第3号議案の役員選出まで提起を行い、満場一致で承認されました。また、本総会ではスローガンを「若い力を結集しよう！パワフル！ジョイ

フル！ハートフル！」とし、①ふれあい・交流を深める活動、②次代のリーダー育成のための意見交換・学習会、③平和への取り組み、④福祉・ボランティア活動、といった取り組みを基盤に「力強く、楽しく、心通じ合う」活動を展開していくことを確認しました。

最後に、鳥飼公太委員長(自治労)の音頭による参加者全員の「団結ガンバロウ」で総会を締めくくりました。



新役員

2013年度役員体制		
役 職	氏 名	産 別
委 員 長	鳥 飼 公 太	自 治 労
副 委 員 長	小 川 雅 弘	基 幹 労 連
事 務 局 長	中 村 修 治	電 力 総 連
事 務 局 次 長	山 本 高 志	J R 連 合
幹 事	吉 田 未 礼	J P 労 組
幹 事	志 良 堂 清 史	都 市 交
幹 事	城 下 麗 子	全 労 金
幹 事	田 中 淳	長 崎 私 交 通

退 任 役 員		
旧・役職	氏 名	産 別
委 員 長	江 頭 敏	電 力 総 連
副 委 員 長	大 石 淳	基 幹 労 連
事 務 局 長	森 本 龍 也	自 治 労
幹 事	白 木 智 宏	運 輸 労 連

「アジア・アフリカ支援米」 各地協で稲刈り！



春に田植えを行った各地協(ブロック)において、10月に稲刈り作業を行いました。各地協で様々なイベントを盛り込み、楽しい汗を流しました。収穫された支援米は、現在各構成組織へお願いしています。カンパ金で購入するお米と合わせ、来春3月に支援先に発送予定です。各地協のみなさんご協力ありがとうございました。

北松ブロック



佐世保地協



諫早地協



五島地協



島原地協



長崎県特定（産業別）最低賃金（3業種）が結審！

長崎県特定（産業別）最低賃金の審議は、11月21日（水）に開催した長崎県最低賃金審議会において、「電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業」についての採決をもって、長崎県の産業別最低賃金（3業種）が結論に達しました。

長崎県の産業別最低賃金は、「船舶製造・修理業、船用機関製造業」（造船）、「はんよう機械器具、生産用機械器具製造業」（一般機械）、「電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業」（電気）の3業種について審議しており、それぞれ公・労・使各側3名の委員で専門部会を構成し審議を行っています。2012年の産業別最低賃金審議は9月25日に長崎労働局長の諮問を受け、その後、各4回の専門部会を開催する中で、労働者側は①2012年長崎地方最低賃金の賃上げ額（7円）を下回らないこと、②長崎県の基幹産業である3業種の労働者として、一定の賃金を保障することを主張したのに対し使用者側は、①最近の円高等による景気の悪化、②受注不振による先行きの不透明さを理由に、最低賃金の引き上げに消極的な対応をとりました。

専門部会において労使が主張する金額の差が最後まで大きかったことから、それぞれの専門部会で公益見解を示すこととなり、その結果、造船（+3円：791円：労側退席）、一般機械（+6円：779円：全会一致）、電気（+6円：717円：使側反対）で結審しました。（法定発効日：造船1/4、一般機械1/2、電気1/19）

今回の審議での特徴点は、造船の審議において他県が5円から6円で結審したにもかかわらず、長崎においては3円の公益見解となったこと、また、電気では使用者側が当初引き下げを主張したことにより、審議会そのものが例年になく紛糾しました。

2012年11月21日
連合長崎最賃対策委員会